

---

# とある無敵の多重能力者

ゆっぴー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある無敵の多重能力者

### 【Nコード】

N8143Z

### 【作者名】

ゆっぴー

### 【あらすじ】

テンプレでとあるの世界に転生したレベル6で聖人で多重能力者で世界最高の魔術師である神野秀也が原作介入をする話です。

この作品は、作者の処女作で駄文です。さらに不定期でオリ主最強ですが、「それでもいい」っていう心優しい人は読んで下さい。

## ブログと第一話（前書き）

はじめて、ゆっぴーです。

この作品は処女作で駄文の不定期です。  
故にキャラ崩壊があるかもしれません。

「それでもいい。」っていう方は、このままお読み下さい。

## プロローグと第一話

突然だが、俺は死んだらしい。どちらかと言うと夢であって「夢じゃあないぞ。」… 夢ではないらしいので、本当に死んだようだ。

神「本当にすまない。お主は、家庭科の調理実習中に、こっちの者のミスで全身火だるまになって死んでしまったようじゃ。」

なるほど、これがいわゆるテンプレというやつか。そういえばなんか最期すごい熱かった気がする…。

神「というわけで、お主には、『とある』の世界に転生してもらうことになった。」

あつ、ちなみに俺の名前は、神野秀也（14歳）だ。そして目の前に、神一（？）がいる。

神野「何が『というわけで、』かわかんないですけど、別にその世界好きだったからいいですよ。あと、特典って何か付きますか？」

ちなみに俺は禁書のアニメしか見ていないが、一『スクール』が反乱を起こすことや、第三次世界対戦があることは、友人から聞いている。

神「全然大丈夫じゃ。まあ、ある程度は才能でどうにかなるが、それ以上はそれなりに苦労してもらうがの。」

…それって、特典にならないので「なるぞい。」

あつ、心読まれた。

神「努力してもどうにもならないことも、強制的に努力させてその力を身に付けさせてやると言っておるんじゃ。立派な特典じゃろっ？」

…なるほど。

神野「では、とりあえず聖人にしてください。あと、レベル6で多重能力者 デュアルスキル で、さらに十万三千冊の魔導書の記憶とあり得ないほどの天使の力 テレズマ をください。」

神「天使の力と聖人は、才能でどうにかしておくが、あとは努力するんじやの。まあ、原作開始までには、どうにかしておくぞ。」

それなら、問題無さそうだな。そういえば何でとあるの世界なんだろう？

神「勿論、儂の好きな世界じゃからに決まっておろう。もう言いたいことはなさそうじやの。では、第二の人生を存分に楽しんで来るがよい。」

そして俺の目の前が真っ暗になった。

はい、こんにちは。無事転生して今幼稚園の年長になった神野

秀也改め、高田直人だ。

まあ、俺の転生後直ぐの生活なんか誰も知りたくないと思うから飛ばさせてもらう。とりあえずすごい恥ずかしかったとだけ言っておこう。

ちなみに今、俺にはいつも一緒に遊んでいる友達、というか妹みたいなのがる。それが：「直人お兄ちゃん！」「ぐふっ！！」いま俺の鳩尾に頭突きを食らわしてきた佐天涙子である。

高田「んー、涙ちゃん（なみだちゃん）どったの？」

佐天「えぐっ、あのね、ひくっ、おんなじクラスのね、ずずっ、高良ちゃんと、吉田君がね、うぐっ、いきなりわたしのこと蹴つてきたの、うわーん！！」

このように、かなりの頻度で俺に泣いて来るから、「涙ちゃん」って呼んでいる訳だが、今はそんなことどうでもいい。俺の妹を泣かせたやつと少し O H A N A S H I なくては！！

ちなみなにこんな風に涙ちゃんを泣かせたやつは、年上だろうが聖人の力でボコつつて謝らせている。決してロリコンなんかじゃないんだからな！……………今のは忘れてくれ。

まあ、俺はこんな感じで第二の人生を存分に楽しんでいる。

くその夜く

高田直人の父（以降父）「お前ももうすぐ一年生なんだし学園都市に行ってみないか？」

高田直人（以降高田）「うん、いいよ！！あそこなんか楽しそうだし。（原作介入したいし。）」

おっしやきたああ！！！！やつと自分の能力がわかるぞおお！！！！明日、涙ちゃんの説得大変そうだな。うん、頑張ろう…

（翌日）

高田「俺、来年から学園都市に行くことになったんだー」

と過去（前世含む）最高のテンションで話す。

佐天「えー、直人お兄ちゃんと離れたくない！！わたしも一緒に行く！」

と若干涙目になりながら言う。

高田「まあ、行きたいんだったらまず三年後の小学生になってからだな。それに、一生会えない訳じゃ無いし。あとすぐに泣かないようにすることだな。最後に、これを俺だと思って大切にしてくれ。」

と言って、白い花の髪止めを渡す。

佐天「うん!!わたしもう泣かない!!」

なんとかなだめることができた…



## ブログと第一話（後書き）

感想評価、どんどん下さい。

しかし返信できないかもしれません。

あと批判は、できるだけオブラートに包んで下さい。

**第二話 置き去り チャイルドエラー (前書き)**

まさかの連続投稿です。

## 第二話 置き去り チャイルドエラー

確かに自分の家は裕福では無いとは思っていた。しかし自分がまさかあの置き去り チャイルドエラー になるとは、夢にも思わなかった。

基本的に置き去りには、二通りある。一方は、まともな施設で衣食住が保証され同じ施設の友人たちと、まともに暮らせる子達。もう一方は、木イイ原アアクウウン的な方々に、「限界？なにそれ、食えんの？」という感じで、ぶっ壊される、またはそれに近いことをされる子達。そして残念ながら、俺は後者だった。

研究員「00044番、薬の時間だ。」

これは、俺のことだ。薬の仕組みはよくわからんが、それを静脈に1日三回入れられる。もう何カ月、いや何年間もこれをやっているが、全然慣れない。今でも時々意識を失うときがあるし、子供が死ぬのだってざらにある。

ただ、そんな生活の中で唯一良いことがあったとしたら能力者になったことだ。ちなみにレベル4である。どんな能力かというと、

研究員「では00044番、この紙の模様を当てろ。」

俺「星です。」

研究員「いいだろう。」

透視能力 クリアボイランス ではなく生体電気や信号から相手の

考えていることを読み取る  
情報観見 ノンプライベート （研究員命名）である。もうすぐレベル5になると言われている。

レベル5になると半径1km以内の人間、機械を自由に操れて、さらに能力者の自分だけの現実 パーソナルリアリティー の読み取り、使用が可能になるらしい。つまり擬似的な多重能力者 デュアルスキル になるということだ。

〈数カ月後〉

レベル5になれた。最近では、慣れてきて一気に水と火と氷を出しながら、空間移動が出来たりする。  
そんなある日、

研究員「お前は、これから違う研究所にいつてもらう。」

この言葉で、俺の人生は、より狂わせられていく……

〈数日後〉

研究所「一応、テメーらにも実験内容を教えてやる。これは、第一位の自分だけの現実を直接テメーらの脳ミソにブチこんで多重能力者を作るっつー実験だ。ちなみに明白の四月計画っつーんだ」

いや、待て。多重能力者って脳が耐えられないから不可能じゃない

のか？子供5000人位集めても無理だろう、どう考えても。

実験結果は、一応成功で俺一人だけ生き残った。しかし実験中に暴走して、自分や周りの子を燃やしたり、発狂した子が続出し、唯一の成功例の俺も反射しかできないので、この実験は凍結となった。

　さらに数カ月後

着々と能力を伸ばしてきたところで、新しい実験に参加することになった。

その名も超能力製造計画　レベル5ファクトリー

俺の能力の一つの演算補助と強制演算によって、能力者の演算能力を底上げしレベル5を作るという計画。

これも明白の四月計画とほとんど同じく300人中298人が暴走二人は成功したが、反乱を起こしたため、凍結となった。

この時実験の責任者に「実験に参加したくない。」と伝えたら、「その時は毒ガスで、君と実験台　モルモット　を殺すしかない。」と言われて、仕方無く実験に参加した。

ちなみにその二人の能力は自分の体を操る身体掌握　ボディーコン

トローラー と空間移動系の固定座標 フリーポイント で俺の一方通行の能力は絶対守護領域 ミラーコート (研究員命名) となっている。

二ヶ月後

この時に俺のために最もなって、俺が最も嫌いな実験が行われた。

第二話 置き去り チャイルドエラー (後書き)

なぜこんなに話が重くなった…

冬休みの補習授業なんて消えてしまえ!!

感想評価誤字脱字の指摘お待ちしてます。

### 第3話 親友とレベル6（前書き）

ああ、本当に重い。



### 第3話 親友とレベル6

ある日「樹形図の設計者 ツリーダイアグラム がとある」予言”をした。

『学園都市第一位——方通行 アクセラレータ が、第三位——超電磁砲 レールガン を128通りの方法で、また序列無しの一情報視見 ノンプライベート が500人のレベル5を、殺害することでレベル6になる。』と

そんなことも知らず俺はとある施設でいつもと同じような実験をしていた。しかしいつもの施設と違って友達というのができた。彼の名前は火野紅介。レベル4の一発火能力者 パロキネスト どんなやつかというと、

火野「俺がレベル5になったら、悪い研究員達を全員やつつけて一置き去り チャイルドエラー 達をみんな保護してやるんだ！」

正義感の強い奴だった。能力と同じくらい暑苦しくて。そんな俺は、

俺「レベル5なんてそうそうなれるもんじゃ無いし、やりようによってはこの町じゃレベル5でも直ぐ死ぬかもしれないし。それにこういった研究が無かったら、学園都市の技術の成長は止まつちまうだろ。」

冷静というか諦めきっていた。しかし俺は何故か火野と馬が合いずだと一緒に話していた。

そんなこんなしているうちに、新しい実験が始まった。

研究員「今回の実験は情報視見が演算補助でレベル5を作りそれを殺す、つてのを500回ほどやってもらう。もちろん拒否したら、ここにいるみんなに消えてもらう。どっちみち処分されるんだから、有効活用してやれよ。」

頷くしか無かった。そして神に力を望んだ自らの浅はかさを呪った。

そして実験当日、最初の相手は火野だった。

火野も自分の状況を把握していた。だからこそ本気で俺を殺してきた。しかし相手をレベル5にしても反射は生きているので火野の放った炎は、自分の左手を溶かした。

火野「があああ!!」

火野が呻いている隙に一瞬で近づき腹蹴り飛ばす。そして火野が倒れた瞬間に馬乗りになり、拳を構える。

俺「何か言い残したことはあるか？」

火野「レベル6になっても自由に生きる!!世界中の全員を守

れとは言わねえ。だから！自分の守りたいやつは必ず守れ！！」

俺は泣いていた。

俺「わかった。ありがとう、あとごめん。」

こうして俺の学園都市に来て初めてできた親友は俺によって殺された。

しかし実験はそんな感傷に浸らせることなく進められていく。

20人位で何も感じなくなった。

100人位で、自分の能力が強くなっていることを自覚した。

300人位で、実験を止められる力を得た。

「でも止められなかった。その時の俺は親友の「レベル6になれ。」という言葉に縛られていた。

そして500人目で、俺はレベル6になった。

嬉しくないことは、無かった。後悔もしていない……いやしてはいけなかった。ただ　　「空しかった。人の犠牲の上に成り立つ力に疑問をもった。

しかし俺は直ぐに行動を起こした。まずは、この実験に関わった研究員を潰した。  
そしてこの実験に関するデータを跡形もなく消した。

そして俺は初めて研究所の外を”自由に”歩いた。

### 第3話 親友とレベル6（後書き）

感想評価誤字脱字どんどん下さい。

ストーリーのリクもあればどうぞ！！（答えられないかもしれません）

第一章ももう少し続きます。

主人公のいまのスペック（ネタバレ有）（前書き）

重い話は終了!!

## 主人公のいまのスペック（ネタバレ有）

名前：神野秀也

自分を捨てた親からもらった名前は、名乗りたくないから、前世の名前に変えた。ちなみに前世の親には感謝している。

レベル6だが、アレイスターに直談判し、レベル5の第六位を名乗っている。しかしその情報すら改竄し、皆にはレベル0と認識されている。

容姿：能力のせいで、ホルモンのバランスが崩れ、髪の毛は灰色に、目は右だけ赤のオッドアイに、顔全体もかなり整っている。身長は176cm。また、両耳には、逆十字架のピアスを付けて右手の人差し指、中指、薬指には、剣、槍、盾が彫つてある指輪をしている。

能力：一情報視見 ノンプライベート 一絶対悪夢 ジ・アブソリュート

半径100km圏内の生物、機械の信号を読み取り、操る。

応用：演算補助…対象の演算を助ける。レ

ベル0二十人をレベル5に

できる。

強制演算：対象の演算能力を底上げ

する。やり過ぎると対象

が危険。

強制労働：自分の生体電気を操って

体のリミッターを外す。

現実取得：周囲の能力者の自分だけ

の現実を読み取ってその

能力を使う。

絶対悪夢：相手の信号を操って五感に訴えかける幻覚を見せたり、相手を動けなくする。

完全記憶能力：自分の脳の信号を操作していつでも思い出せる。

— 絶対守護領域 ミラーコート —

絶対標識 オールディレクション

半径100m圏内のすべてのベクトルを操る。また、触れている物のスカラーも1% 10000%にできる。

性格：フリーダム。正義の味方ではないと自覚している。自分と友人のためならなんでもする。



主人公のいまのスペック（ネタバレ有）（後書き）

ゆっぴー「これから次回予告をします。」

神野「気が付いたら原作開始一年前！まあ、

ゆっくり休んで…いらなかった！！とりあえずアレイスターとか一方通行に会わなきゃな。っつーわけで次回」

ゆっぴー、神野「「第4話無敵の邂逅！！」」

#### 第4話 レベル6の邂逅（前書き）

なんかお気に入り登録してくださった方が九人も…！！

本当にありがとうございますm（——）m

そして、一方通行のキャラ崩壊が…

## 第4話 レベル6の邂逅

研究所を出たのはいいが、いくあてと金がない。…困った。金が無いからホテルにも止まれないし、かといって野宿すると補導される。今は警備員のお世話になりたくないしな。

そんなこんなで、悩んだ結果統括理事<sup>アレクスター・クロウリー</sup>長に相談（脅迫）することにしよう。よし、思い立ったが吉日。早速空間移動<sup>テレポーター</sup>をパクって窓のないビルにjump！

「窓のないビルにて」

今俺の目の前には男にも女にも子供にも老人にも聖人にも囚人にも怒っているようにも笑っているようにも見える人（？）がいる。

アレクスター「何の用だ。一絶対能力者（レベル6）の高田直人。」

俺「まず、俺の名前は神野秀也だ。あと学園都市最強を名乗ってっとなんな奴らに襲われっから、レベル5の第6位にでもしといてくれ。まあ、あと衣食住と金を保証してくれ。これじゃあ生活出来ん。」

アレクスター「ふむ。しかしそれをするによって私に利益はあるのか？」

俺「無いな。」「では…」でもしてくれ無かったら、全力で学園都市を壊す。一今の俺（レベル6）なら、その程度朝飯前だな。」

アレイスター「それなら仕方ないな。とりあえずレベル5としての奨学金と口座、さらに今までの実験の謝礼を出そう。それで食べ物と服を買うといい。家は第19学区の空き家を使うといい。これがクレジットカードだ。」

俺「まあ、それでいいや。んじゃ、家探しに行くわ。」

と言つて俺は外にテレポートする。

とりあえず服と携帯電話を買ったし、飯も食った。それじゃそろそろ家探してますか！

と思つてつと前から白もやしが来てるし。」

一方通行「ああ？ テメエ、学園都市第一位にケンカ売るたアイイ度胸してンじゃねエか。」

俺「あー、わりい。思わず心の声が出てきてたわ「よけエワリイよ！！」すまん、すまん。ところでお前の実験つていつやるんだ？」

一方通行「ああ、アレかア。そんなら明日からだぜエ。ツツーかオマエ何モンだ？ なんで実験のことしッてやがンだア？」

俺「まあ、実験の関係者つてとこかな。」

嘘は言つてない。俺のは一方通行のデモンストレーションっていう側面があつたらしいしな。

俺「そんなことはどーでもいいんだけどさ。いい気分じゃねーぞ？

誰かを犠牲にして力を得るっつーのは。実験を拒否出来る力があるんなら止めとけ、そんなもん。それにもしお前が、人との繋がりが欲しくて、でも人を傷つけたくなって力が欲しいんなら、俺が友達になってやるよ。」

そう言つて俺は一方通行の肩をポンツと叩く。

一方通行「反射は生きてる…？ テメエ、ナニしやがった！？」

俺「能力使った。んじゃ、お前の携帯に俺の番号とメアド（能力で登録しといたから。いつでも連絡くれよな。じゃあな（＾o＾）／」

そう言い残して、俺はテレポートする。

（一方通行 side）

オレは、明日に大事な実験があるのにも関わらずコーヒーを大人買いしていた。すると前にいた、男が

「……つと前から白もやしが来てるし。」

ケンカ売ツてキヤガツた。

一方通行「あア？ テメエ、学園都市第一位にケンカ売るたアイイ度胸してンじゃねエか。」

俺「あー、わりい。思わず心の声が出てきてたわ「よけエワリイよ

「!!」すまん、すまん。ところでお前の実験っていつやるんだ?」

ンア? コイツ実験の関係者かア?

一方通行「ああ、アレかア。そんなら明日からだぜエ。ツツーかオマエ何モンだ? なんで実験のことしッてやがンだア?」

俺「まあ、実験の関係者ってとこかな。」

ヤツぱりなア。そしてコイツは続ける。

俺「そんなことはどーでもいいんだけどさ。いい気分じゃねーぞ? 誰かを犠牲にして力を得るツツーのは。実験を拒否出来る力があるんなら止めとけ、そんなもん。それにもしてお前が、人との繋がりが欲しくて、でも人を傷つけたくなくて力が欲しいんなら、俺が友達になってやるよ。」

ンなコト言ッてコイツはオレの肩を叩いてきやがッた!?

一方通行「反射は生きてる...? テメエ、ナニしやがッた!?」

俺「能力使った。んじゃ、お前の携帯に俺の番号とメアド登録していたから。いつでも連絡くれよな。じゃあな(＾o＾)ノ」

そう言ッてヤツは、突然消エやがッた。多重能力者かア!? アイツはア!?

そ後に携帯を見てみッと一件だけ知らネエナマエがあッた。

「神野秀也... ナニモンだア? アイツは?」

～一方通行side end～

～神野side～

さーて、皆さん。俺は今第十学区名物のスキルアウトに囲まれている。ただ、少し普通とは状況が違う。それは、

スキルアウト「……このリーダーになってください、兄貴  
！」「……」

こんな感じだ。まあ、あらすじを説明すると、

第19学区でなんか不良にボコられている男発見。

不良をボコって男救出。

男は実はスキルアウトで、男の仲間に歓迎される。

頼まれて、そいつらと敵対するスキルアウトを壊滅させる。  
(五分で能力未使用)

なんかリーダーになってくれと言われる。

こんな感じだ。

俺「別にいいけど俺、能力者だぞ？しかもレベル5。ちなみに  
に序列は六位な。」

スキルアウト「……それでも構いません！！兄貴！！」「……」

「

…なんか舎弟が出来てしまったようだ。  
(50人位)



#### 第4話 レベル6の邂逅（後書き）

感想評価誤字脱字の指摘お待ちしてます!!

ここで読者の皆さんに質問ですが、この小説の字数を増やしたほうが良いでしょうか？コメント、感想に書いてくださいm（――）m

一方通行「次は、神野が能力を本格的に使っらしいなア」

ゆっぴー、神野「次回第5話 原作直前の休暇」

## 第6話 原作前の休暇（前書き）

サブタイの意味不明

こんなですが過去最長。  
一応自信作です。

それでは、どうぞ!!

## 第6話 原作前の休暇

皆さん、こんにち。少し前にノリでスキルアウトのリーダーになってしまった神野秀也だ。今俺の組織は、駒場のとこと、二年前に死んだ黒妻のビッグスパイダーと張り合う程の組織になっている。いま、第19学区をまとめている。

ちなみに俺の組織にはいくつかルールがある。

一、強引なナンパの禁止。

一、少数相手に大人数で行かない。

一、無能力者相手に能力は攻撃に使わない。

一、一般人にケンカ売るな。

大体こんなもんだ。あと、メンバーは俺がレベル6であることを知っている。また、俺の能力の強制演算と演算補助を軽く使って、メンバーの全員が能力者になっている。ちなみにレベルは、殆どが2で、高いやつで3だ。当時は、皆「もつとやれ」って言ってたが、翌日に脳を使い過ぎたことによる頭痛とやり過ぎたら死ぬと言ったらそんな声もなくなった。

大分話が逸れたが、いま俺たちは駒場んとこにケンカをしに行こうとしている。理由？暇だからに決まってるんだ。だってあいつ俺が強いらしいってだけで、ハードテーパーング使ってくるし。あと、第7位の攻撃耐えるやつ、モツ鍋って名前の、がいるしな。まあ、暇潰しにはうってつけの面白い奴なんだな。

今駒場の奴らとのケンカが終わったところだ。あ？内容？簡単に説明すると俺と駒場が、7分くらい殴り合ってたら、あいつが全身肉離れしたとか言ってダウン。そこから一気にこっちが優勢になって圧勝で終わった。

そしてまた新たな問題が来ている。それは、

？「こんなに相手をボコボコにするとは根性の無い奴らだな！！くらえ必殺、すごいパーンチ！！」

ドゴオという大きな音を出して俺は隣の廃ビルに叩きつけられ、ビルに蜘蛛の巣みたいなヒビが入る。

俺「あー、お前ら駒場の奴ら連れて今すぐ逃げろ。こいつは、学園都市のレベル5第7位、ナンバーセブンこと削板軍覇だ。俺とこいつがケンカしたら周りが壊滅するから、巻き込まないように早く逃げろ。」

と言ってこいつらを逃がす。

削板「ほう兄ちゃん、舎弟を逃がして俺に一騎討ちを挑むとは、根性あるじゃねえか。兄ちゃん名前は？」

俺「神野秀也。」

それだけ言って、俺は能力を使って思いっきり地面を踏みつける。

すると周りにあったビルの全てが崩壊し、その破片が全て音速を超えてら削板に迫る。それをあいつは、

削板「根性おお！！！！すごいパンチアアアッシュツツツッ！！！！！！」

全て粉碎した。

俺「へー、それって連発出来たんだ。」

削板「うおお！！！！根性があれば何だって出来る！！そして今のは、中々根性のたる攻撃だったぞ！！」

そう言っただかと思うとあいつの背後でいきなりバァンと爆発が起こり、モクモクと七色の煙があがる。

俺「ふーん、ありがと。」

そう言っただ刹那の速さであいつに近づき思いつき蹴りを食らわそうとする。それをあいつが、

削板「超すごいガード！！！！！！」

解析不能な壁を生成して防ぐとする。しかし今の俺の蹴りは、聖人の全力でさらに生体電気の操作とアドレナリンを強制的に大量に分泌させ、なおかつ足のベクトルとスカラーを操作によって、最早蹴りのカテゴリーから外れた破壊力を秘めている。だから、あいつの盾ごとあいつをぶっ飛ばし、あいつは何個かの廃ビルを貫通して止まった。

……うん、あいつは気を失ったみたいだけど、生きてるな。まさしく理解不能だな。ちなみに俺たちが（主に俺）ぶっ壊したビルは、使い道がなくなっ取り壊す費用ももつたと言われて放置されている建物だったから賠償は請求されなかった。ただ駒場の奴らには、怒られた。

（3月）

（白井黒子 side）

わたくしは今固法先輩が銀行でお金をおろそうとしているときに、同年の初春に偶然会った話をしているところですよ。

初春「よく知らない人のことをそんなに言えますね…」

白井「そう言えば、大体失敗して寂れた第19学区の方が生徒の多い第7学区より治安がいいというのは、おかしいですよ。」

初春「あー、それはなんか第19学区をまとめているスキルアウトのリーダーがすごい強くて悪さが出来ないかららしいですよ。」

白井「知っていますの。でもこの前あった謎の廃ビル大量崩壊事件の犯人が、その殿方という噂がありますの。」

初春「そうだったんですか！？もしそうだとしたら、その人って相当高位の能力者なんですよーね。」

（白井 side end）

さて俺たちは今第7学区のゲーセンを巡る為に銀行で資金を得ようとしている。ちなみに俺たちの組織の活動資金は俺たちの奨学金だったり、スキルアウトにわざとケンを売られて「迷惑料」を貰っ

たりしている。そこで待ち時間の間爆睡していると、なにやら女の子が叫んでいるのが聞こえたので、め目を開けると、

破壊された警備ロボ、大怪我を負って倒れている高校生位の女と、大怪我を負いながらも明らかに「銀行強盗」っていう感じの男に立ち向かっている女の子。…うん、明らかに銀行強盗だね！よし、ここは、なんか期待の眼差しでこっちを見ている舎弟たちの為にも少しボケをかますか！！

そう思い、俺は銀行員に近づいて、

俺「そろそろ俺の番ですか？口座から、10万おろして下さい。」

金を要求した（合法的に）。ぷぷつ、銀行員の女の人めっちゃ困ってるww

銀行強盗「おい！ふざけてんじゃねーぞ！！」

とか言つて鉄球を投げってくる。

んー、鉄球にかかる力を強制的に釣り合わせて等速直線運動させてっていう能力か、でも残念、俺の能力は、オルディレクション物理系最強だからそんなのは、通用しないんだよ！

俺「いらん、そんな鉄球。」

そう言つて向かって来た鉄球にデコピンをする、するとその鉄球が目で見えない速さでその男の横を通りすぎ、後ろの壁に刺さる。

銀行強盗「ちっ！なら複数の鉄球ならどうだ！？」

と叫んでこつちに10個位の鉄球を投げってくる。それを俺は近くの  
空間移動テレポーターを使って全部男の背後に飛ばす。

男は、自分背中に刺さりそうになった鉄球にかかっている能力を解除するが、その隙に男に近づき膝蹴りを溝尾に食らわせる。そして男は一瞬うめき声をあげて、意識を手放した。

（白井side）

自分がでしゃばったせいで一時はどうなるかと思いましたけど、突然現れた殿方のお陰で助かったですの。

助けてくれた殿方「怪我、大丈夫？」

白井「ええ、貴方のお陰で何とか助かりました。ありがとうございます。」

助けてくれた殿方「それは良かった。それじゃあ俺はもう行くわ。お前ら、行くぞ。」

白井「ちょっと待って欲しいですのー！」

わたくしの制止も聞かずその殿方は、仲間たちとテレポートしてどこかに行ってしまったですの。

途中のは一体何だったのでしょうか？能力を二つ使っているように見えましたか…。





## 第6話 原作前の休暇（後書き）

感想評価誤字脱字の指摘お待ちしております。

白井「時は変わって、もうすぐ夏休みですの。そんなときに、四ヶ月にわたくしを助けてくださった殿方と雰囲気似た殿方が、風紀委員として、だい177支部にやって来たのですの。」

ゆっぴー、神野「第7話（超電磁砲の）原作介入」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8143z/>

---

とある無敵の多重能力者

2011年12月27日00時50分発行